南山っ子通信

長崎南山小学校
学校生活だより
令和３年１１月号
担当〔山田〕
NO.105

人間は二度死ぬ。
最初の死は，肉体の死。
でも，死者を覚えている人がいる限り，
その人の心の中で生き続けている。
二度目の死は，死者を思い出してくれる人が
誰もいなくなったとき。
ぼくは，そう思っています。
人は歳月の中で，亡くなった人のことを忘れがちです。だから時々，誰かと故人の思い出話をしたりしましょう。
それも供養の一つだという気がします。

タレントや随筆家，作詞家として活躍した永六輔さんが残した言葉です。

家族や親戚，友人・知人が久しぶりに集まったとき，互いに関わりのあった故人を偲んだり故人の話に時間を忘れてしまったりというような経験をされた方も，きっと多いことだろうと思います。故人を思い出すときは，新たに悲しみがよみがえってきたり，ほのぼのとした笑いに誘われたりもします。この世では二度と会うことのできない故人ですが，思い出してくれる人たちがいる限り，その思い出してくれる人たちの心の中でいつまでも生き続けているのだというのが，永六輔さんの考えのようです。

「ところが，何十年も時が経ってしまうと，その関わりのあった人たちもやがて亡くなってしまうときがやってきます。それは必ずやってきます。誰一人思い出してくれる人がいなくなってしまうとき，その故人は二度目の死を迎え，完全に亡くなってしまうのです。だから，わたしたちは生きている今のうちに，亡くしてしまった大切な人との思い出話をいっぱいするようにしましょう。それが，お世話になった故人を更に大切にしていく供養の一つになるのですよ。」と，永六輔さんはわたしたちに呼びかけています。

「わたしたちに関わりのあった故人を大切にしましょう」という永六輔さんの言葉を紹介しましたが、カトリック教会でも、「亡くなった人のことを思い出し、その人のためにお祈りしましょう」という教えがあります。その教えに関連した言葉の一つ「聖徒の交わり」についてお知らせしたいと思います。

聖徒の交わり

「天地の創造主，全能の父である神を信じます。・・・」という言葉で始まる使徒信条という祈りがあります。この祈りは，キリスト教の信ずべき基本的な教義を１２箇条にまとめたもので，ごミサの中やロザリオの祈りの始めに唱えられたりしています。子どもたちもよく知っている祈りです。使徒信条の最後は，「・・・・・・聖霊を信じ，聖なる普遍の教会，聖徒の交わり，罪のゆるし，からだの復活，永遠のいのちを信じます。アーメン。」と続きます。

ところで，教会のメンバーといえばキリストを信じる信徒の集まりと考えがちですが，カトリックの教えは違います。カトリックでは，この世の信徒ばかりでなく，この世の生活を終え神のみもと（天国）で主を賛美している人々（聖人たち）も，また小さな罪や償いを残したままこの世の生を終え，天国に入るために煉獄で清めを受けている霊魂たちも教会のメンバーだと考えます。この世に生きているわたしたちと天国の聖人たち，煉獄で苦しんでいる霊魂たちは互いに関わり合っており，これらの三者で構成される共同体が教会であるというカトリックの教えです。

この世と天国，そして煉獄の３つの状態にある者たちの関わり合いが「聖徒の交わり」と呼ばれるものです。わたしたちは、使徒信条の中で，三者に関わり合いがあること「聖徒の交わり」を信じていますとお祈りをしているわけです。

もう少し簡単にまとめると，「聖徒の交わり」とは，次のようなことだといえると思います。

・天国の聖人たちは，この世のわたしたちのために神様に取り成しをしてくださっており，わたしたちは自分でも気づかないうちに，天国の聖人たちの執り成しによって，助けられているということ。

・反対に，悲しみや苦しみ，病の中にあるときなど，わたしたちは助けてもらうために，天国の聖人たちに神様への取りなしを求めて祈ることができるということ。

・自分では罪の償いも祈りも何もすることのできない煉獄の霊魂が早く罪から解かれ天国にいくためには，この世のわたしたちの祈りが必要であるということ。つまり，わたしたちは祈りによって煉獄で苦しんでいる霊魂を助けることができるということ。

カトリック教会では，１１月を「死者の月」としています。煉獄で苦しんでいる霊魂の救いのために祈る月です。わたしたちに身近だった人たちが天国で幸せにいるのか，あるいは煉獄で苦しんでいるのか，この世にいるわたしたちには何も分かりません。もし，煉獄で今も苦しんでいるとしたら，その霊魂の救いのために祈らずにはいられません。使徒信条の中で「聖徒の交わり」も信じていると唱えている子どもたちです。亡くなられた身近な人たちのために，また，誰からも忘れられている霊魂の救いのためにも祈りを捧げて欲しいなと思います。

♣♣ 教室紹介 ♣♣

３年１組　担任　名切　正彦 先生

３年１組は，とても元気な 11 人の男子と心のやさしい 11 人の女子の集まりです。一人ひとりがもっている笑顔・元気・やさしさをいつでも 100%出せるように，学級目標は「えがおいっぱい　げんきいっぱい　やさしさいっぱい」としています。また，苦手なことにも諦めずに取り組むことも，みんなの目標の一つです。

朝の会のときの暗唱は，ただ暗唱するだけでなく，グループを決め，日ごとに役割読みの部分を変えながら大きな声で暗唱しています。楽しく暗唱している様子に，クラスのチームワークのよさが感じられます。

今は，近づく持久走記録会に向けて体育の時間にしっかり走り込んでいます。走り方の工夫や目標タイム，ペースなどをペアで話し合いながらランニングプランを立てて取り組んでいます。互いに声援やアドバイスを送り合っている様子にも，やはりクラスのまとまりのよさを感じます。

汗まみれになって体を動かすことが大好き，みんなが一つになって遊ぶことが大好きな中学年らしい明るくにぎやかな３年１組です。

♪わたしをお使いください（マザー・テレサの祈り）

１．主よ　きょう　いちにち
まずしい人や　病んでいる人々を
たすけるために
わたしの手を　おのぞみでしたら
きょう　わたしの　この手を
お使いください

２．主よ　きょう　いちにち
友をもとめる　小さな人々を
おとずれるために
わたしの足を　おのぞみでしたら
きょう　わたしの　この足を
お使いください